



## 令和元年度 第1回 保護林管理委員会を開催



保護林の課題等を審議する委員会の様子

7月19日、第1回九州森林管理局保護林管理委員会を開催しました。冒頭、原田隆行局長より、「昨年度は、「猪八重（いのはえ）照葉樹林生物群集保護林」の設定や「やんばる森林生態系保護地域」の保全管理計画策定にご意見をいただき感謝申し上げます。今年度は、第2回委員会で保護林内のシカ被害箇所現地検討会を予定しており、現地での検討を含めてご意見をお願いします」と挨拶がありました。その後、事務局から「令和元年度の検討内容及びスケジュール（案）について」「管理方針書（案）の検討について」「保護林の統合について」「生物群集保護林の地帯区分について」



挨拶をされる米田委員

等の説明を行いました。管理方針書（案）の検討については、委員から「基本方針の検討にあたっては、短期・長期的な視点を持つとともに、達成目標や保護すべきところの優先度についても議論すべきである」「シカ被害対策については、九州森林管理局の取組だけでは解決しないので、環境省や自治体等の関係機関とよく連携して効果的な対策を実施して欲しい」などの意見が出され、了承されました。保護林の統合については、委員から「統合のメリットについては、行政の管理上だけではなく、保全生態学的な効果を前面に出すべきである」「統合対象の保護林が接していない場合は、その間にある森林を含めた保全

※本管理委員会の審議概要は、九州森林管理局HP（キーワード：保護林管理委員会）でご覧になれます。  
(担当：計画課)



挨拶する原田局長

の連携が必要である」などの意見が出され、事務局から提案した保護林の統合案について、一部が了承されました。生物群集保護林の地帯区分の設定の考え方については、了承され、今後生物群集保護林毎に検討することとなりました。その他、宮崎南部署管内の保護林設定候補地や、やんばる森林生態系保護地域の森林基礎調査等について説明を行いました。九州森林管理局では、いただいたご意見を踏まえ、保護林の保全管理に引き続き取り組んでいくこととしています。

# ケヤキの販売 委託を実施

【熊本森林管理署】8月22日、熊本市内の熊本木材（株）において第1901回の市が開催され、当署からも菊池深葉園有林内で発生した風倒木のケヤキ約8立方メートルを販売委託しました。

このケヤキ風倒木は、本年6月下旬の集中豪雨により菊池溪谷の本沢を横断するように倒れてしまい、そのまま放置するとすぐ下流にある橋を壊す恐れがあり、菊池市をはじめ関係機関から早期の除去を求められていたものです。

当日は、多くの買方者が参加



ケヤキの競りの様子

【宮崎南部森林管理署】8月1日、日南市において、収造林組合連合会の総会が約50名の参加のもと、飼肥にある小村記念館で開催されました。総会の中で研修会を計画されており、事前に当署へ講師の派遣依頼があったことから、野邊忠司次長が「早生樹種のセンダンについて」講演を行いました。

## 研修会で次長が講演

当署としては、高品質材であるケヤキ等の被害木等については、資源の有効活用及び収入確保の観点から引き続き生産販売に努めていく考えです。

する中、市のメインとして極積みされているケヤキの競りが開始され、当署及び局資源活用課関係者が立会する中、次々と競り落とされていきました。

その結果、最高入札単価は立方メートルあたり約15万円の値がつくとともに、平均入札単価は立方メートルあたり約6万円で取引されました。

## 「森の塾」を開催

8月8日、監物台樹木園において、熊本県内の小学校教諭8名が参加し、第23回「森の塾」を開催しました。

【宮崎南部森林管理署】8月1日、日南市において、収造林組合連合会の総会が約50名の参加のもと、飼肥にある小村記念館で開催されました。総会の中で研修会を計画されており、事前に当署へ講師の派遣依頼があったことから、野邊忠司次長が「早生樹種のセンダンについて」講演を行いました。



野邊次長による講演の様子

「森の塾」は、森林に対する関心やニーズが多様化する中、森林の役割や利用などについて教職員の方々に理解と知識を深めていただき、学校での森林環境教育に役立ててもらおうことを目的に、毎年実施しています。

はじめに、「森林の多面的機能」と題し、森林の現状と課題や多面的機能について桑原課長が説明を行い、その後、「園内散策・植物鑑定」や「生物多様性シカゲーム」などの体験活動を行いました。

午後からは、「森林の教室（森林を利用した活動について）」と「木工品づくり」を行い、森林の教室では、種の模様が空中で描く独特な軌跡に歓声が上がっていました。また、木工品教室では檜（ヒノキ）を



「マイ箸作り」真剣です



ヒノキとサワラの違いについて勉強

使ったマイ箸を作製し、鉋（かんな）がけの際に感じる檜の香りを楽しんだり、マイ箸に触れ、握り心地を熱心に追求したりと、五感を使って楽しんでいただけました。

参加者からは「（森林の）現状を知ることができて良かった」、「どのカリキュラムも、2学期から子どもたちに伝えることができる実りあるものでした」などの声をいただくことができ、充実した森林環境教育の場となりました。

※「森の塾」については日刊木材新聞（8月17日付6面）に掲載されています。

（担当：技術普及課）

# シカ被害対策協定を締結

## 朝倉市

【福岡森林管理署】7月9日に福岡森林管理署、朝倉市及び朝倉市有害鳥獣駆除部会の三者によるシカ被害対策協定を締結しました。

今後、三者の連携の下で朝倉市内の国有林及び周辺のシカ被害対策推進のために協力体制を構築し、農林業被害及び生態系被害の防止を図って行きます。朝倉市長との面談において、当署の今年度重点取組事項、局のシカ被害対策について説明し



## 串間市

【宮崎南部森林管理署】8月5日に串間市でシカ被害対策協定を締結しました。

協定の調印式には、当署長、串間市長及び串間市有害鳥獣対策協議会長の三者が出席し、串間市の国有林及びその周辺の民有地のシカ被害対策推進のために協力体制を構築することにより、農林業被害及び生態系被害の防止を促進することを目的とした「シカ被害対策協定書」に調印しました。

また、協定に基づき笠松式くくりわな30基を森林管理署から対策協議会へ貸与しました。調印式では、井上隆裕署長が協定に関する経過説明やシカが



九州全域に27万頭以上生息していること、生息域が5倍に広がっていること及びシカは5年で2倍に増えることなどの紹介がありました。

調印後、島田俊光市長は宮崎県北部を視察した時、シカネットを張り巡らせた状況に驚いたこと、イノシシ・サルに続きシカの対策を強化でき農作物や林産物への被害防止を期待するなどのコメントをいただきました。当署は今後も、串間市や対策協議会と協力して串間市でのシカ被害の防止に努めていきます。

## 日南市

【宮崎南部森林管理署】8月27日に日南市でシカ被害対策協定を締結しました。

協定の調印式には、当署長、日南市長及び日南市有害鳥獣対策協議会長の三者が出席し、日南市の国有林及びその周辺の民有地のシカ被害対策推進のために協力体制を構築することにより、農林業被害及び生態系被害の防止を促進することを目的とした「シカ被害対策協定書」に調印しました。

当署管内では串間市に続いての協定となり、管内全域で自治体と有害鳥獣対策協議会の皆さんと協力する体制ができました。また、協定書の調印式の後、笠松式くくりわな30基を森林管理署から対策協議会へ貸与しました。



調印式では、井上隆裕署長が協定に関する経過説明やシカは繁殖力が旺盛で5年で2倍になることなどの紹介がありました。

## 郷土の森の環境整備を実施

調印後、崎田恭平日南市長から3者が協力して被害防止対策を実施することを期待するなどのコメントや、倉岡正富会長から、数日前に北郷町においてメスジカ3頭の日撃情報の報告があったとの報告がありました。当署は今後も、日南市や対策協議会と連携して森林及び農作物へのシカ被害防止に努めていきます。

【西都児湯森林管理署】7月23日に木城森林事務所管内の濱口国有林247林班内にある郷土の森(フォレストピア石河内)において、西都児湯森林管理署、地元石河内地区、木城町、井上林産(株)を中心とする保全協議会メンバーと九州電力職員及びボランティアの参加者約40名で環境整備を行いました。

本活動は、夏休みが始まるこの時期に、森林浴や植物観察などができるよう、快適な利用空間を提供することを目的として毎年実施しています。

当日は、前日までの雨もあがり、天候に恵まれ、参加者はソメイヨシノやヒラドツツジの剪定や下草払い、昨年の台風24号の被害で歩道が通行できなくなっていたため、新たに歩道を作設する



参加者が揃って記念撮影

6日から3日間の予定でしたが、台風8号の影響で2日間に短縮せざるを得ませんでした。このインターシップは、①働くことの意義や自己の職業適性、将来設計について考えを深める②主体的な職業選択能力や職業意識を育成することを目的として、毎年実施されています。今回、受け入れた3名の生徒は公務員志望であり、将来は自然を相手にできる職業に就けられたいの思いから、長崎森林管理署でのインターシップを希望したとのことでした。

など、それぞれが心地よい汗を流しました。最近では、ヤマビルの影響で郷土の森を訪れる人も減少していますが、郷土の森は季節の花の鑑賞や文豪武者小路実篤とその同土によって開村された「日向新しき村」の遠望ができるなど、地元の貴重な財産として今後も継続して活動を続けていくことを宣言し、環境整備を終了しました。

## インターシップ

【長崎森林管理署】8月7日と8日の両日、長崎県立諫早農業高校の環境創造科第2学年の生徒3名をインターシップとして受け入れました。当初は、

1日目は、署内で村田孝彦署長等から国有林野情勢や九州局管内及び長崎森林管理署の概要説明等を受けた後、午後から眉山治山事業所に移動し、眉山治山事業所所長上野治山技術官等から治山業務の重要性及び眉山観測システムの説明等を受けました。眉山の治山現場では現在施工中の導流堤を見学し、コンクリートの強度を測定する機器を使って、その強度を測定しました。生徒達は、間近で見ると流堤の重量感や工事請負金額等に驚いていました。

2日目は、鹿田純吉森林技術指導官等から、普賢岳生物群集保護林・野岳イヌツゲ希少個体群保護林及び田代原風致探勝林の現地において、その設定目的や管理について説明を受けまし

た。生徒達は保護林やレク森等の森林を国有林が管理していることに感心を示していました。



治山現場で強度測定を体験

最後に、生徒達から「今回のインターシップを通して、今まで知らなかった国有林の仕事を経験することができ、森林を守り育てて行くことの大切さについて、より深く知ることができた」、「今後は、インターシップで学ばせていただいたことを活かして進路決定に繋がっていききたい」と心強いお礼の言葉がありました。

## 「鮑田の森」の観察会・下刈作業を実施

【熊本森林管理署】8月3日、南阿蘇村久木野の分取造林契約地「鮑田の森」において、鮑田地区青少年健全育成連絡協議会・

鮑田の森を育てる会、熊本市立鮑田中学校主催による第20回目となる観察会・下刈り作業の活動が、鮑田中教職員・保護者、鮑田地域住民など約35名で実施され、当署からも川畑充郎署長が参加しました。

同協議会等は、青少年の健全な育成、明るく住みよい鮑田の地域づくりなどを図ることを目的として、平成12年に「鮑田の森」を設定し森林づくりを通じて社会活動や環境教育活動に取り組んでおり、今年には20周年の節目の年になりました。

当日は炎天下の中、主催者挨拶に続いて川畑署長が「貴会の取組は全国的にも模範となる優良事例であり、引き続き次世代を担う子供達のために継続した活動を期待します」と来賓挨拶しました。その後、参加者は成長した鮑田の森の観察会を行う



参加者全員で「ハイ！チーズ」

とともに、生い茂った草や雑木の刈り払い作業に心地良い汗を流し、最後に除伐したサクラの枝を活用した自分だけの鉛筆づくりを楽しみました。

なお今回の活動には、大雨の影響で開催日が変更になったため鮑田中生徒は参加できませんでしたが、これまでに2200名を超える卒業生が参加しており、本年度も整備した「鮑田の森」において、恒例となる2年生による立志の記念植樹を来年3月頃に予定しています。

## 九州大学生が誘導伐（一貫作業）を学ぶ

【熊本南部森林管理署】8月27日に九州大学農学部森林計画学溝上展也教授の学生3、4年生8名を対象に、国有林における森林計画、管理、施業の現状等について、現地実習の依頼を受け球磨郡湯前町湯前国有林2019林班にて現地実習を行いました。

当日は、誘導伐の目的、具体的な対象林分、区域の設定方法、誘導の仕方、伐採の方法、森林計画上の扱い（更新方法の指定、伐採等を行う上での留意事項、施業方法の指定など様々な制限等）や事業における作業工程、木材の販売方法などについて当署高木周一次長より説明を受け、

学生からは、「森林の多面的機能の発揮」や「低コスト林業の取り組み」など様々な質問があり、とても有意義な現地実習となりました。



現地実習の様子

今後、学生の皆様が、日本の林業・林産業の発展に尽くされる技術者になることを期待しています。

## 『伐木作業時の災害ゼロ』を目指して

【福岡森林管理署】8月20日に「伐木作業時における労働災害防止のための集団指導会」が開催され、角秀敏署長、杉野隆二次長、金田伸也総括森林整備官が出席しました。

この指導会は、平成30年度にスタートした「第13次労働災害防止計画」において林業が重点

業種として指定されたことから、林業・木材製造業労働災害防止協会福岡支部、福岡森林管理署福岡労働局、福岡県農林水産部などが調整メンバーとなり、福岡県内で林業事業を行ったことのある事業者等へ出席を呼びかけたもので、今回で2回目の開催となり、林業の現場責任者等70名が参加しました。

この指導会で角署長から、国有林における災害の事例や当署における請負事業者等への安全指導の状況を説明し、「この集団指導会を通じ、福岡県の林業労働災害が減少することを祈念する」と挨拶されました。

指導会では、「林業現場責任者の役割」「伐木作業における安全対策」の講義をうけ、参加者は熱心に受講し、福岡県内の



挨拶をする角署長

労働災害の減少・絶滅に取り組むことを確認しました。

## ボランティアで市道を補修

【宮崎南部森林管理署】8月5日、熊本林業土木協会宮崎支部

の日南市、串間市の3社（永野建設（株）、高橋建設（有）、大平開発（株））にボランティアで三ツ岩オヒスギ遺伝資源希少個体群保護林（平成27年に日本林業遺産の認定）へ通じる市道約1キロメートルの路面が劣化している箇所や陥没した箇所



路面補修の様子

視察者が必ず通るルートで毎年多くの入込者があることから、昨年に引き続き実施してもらい

ました。

当日は、同協会から10名と当署から4名が参加して、市道の利用者が安全に通行でき、より多くの方が視察に来ていただくことを願って作業に励んだ一日となりました。

## くじゅう地区高山植物保護対策協議会を開催

【大分西部森林管理署】令和元年8月20日、九重町役場で、当署が事務局を務めるくじゅう地区高山植物保護対策協議会を開

催しました。協議会は、くじゅう地区の高山植物を保護し、自然環境の保全を図るため、関係機関相互の連携を密にして、地域ぐるみの高山植物保護活動を展開し、くじゅう地区の自然保護に資することを目的としています。



普及啓発用のしおり



協議会の様子

当日は、自治体、警察署、自然保護や観光に関する団体、くじゅう地区の国有林を管轄する熊本、大分、大分西部の各署から担当者等が出席して、渡邊格雄副会長（九重の自然を守る会）の進行で議事を行い、平成30年度の事業内容の報告や令和元年度の事業計画等が承認されたほか、観光客への普及啓発のあり方等について意見交換を行いました。

今後、高山植物保護を普及啓発するパトロールや標識の設置を行うほか、くじゅう地区を代表する貴重な高山植物であるミヤマキリシマの刈り出し作業や自然公園クリーン活動などに参画していくこととしています。

# 環境省と九州地方 連絡会議を開催

8月28日、熊本地方合同庁舎において環境省九州地方環境事務所と29回目となる「九州地方連絡会議」を開催しました。

同会議は、林野庁と環境省が緊密な連携、調整の下に円滑な行政を行うために設置され、当局から井口真輝計画保全部長ら17人が、環境省から小口統括自

然保護企画官ら18人が参加しました。

会議では、当局から保護林の現況・ICTを使用したシカ被害対策、治山事業の概要等について、環境省から国立公園満喫プロジェクト等公園事業及び特定外来生物の対策、地域循環共生圏の概要などについてそれぞれ



連絡会議の様子

れ説明し、その後、各課題について活発な意見交換を行い、改めて連携・協力することを確認して会議を終了しました。

(担当 川計画課)

## 交通法令講習・防災ヘリに関する勉強会を開催

【鹿児島森林管理署】8月26日に交通法令講習、防災ヘリに関する講習会を実施しました。本講習は7月の安全週間に実施することを予定していましたが、



法令講習会の様子



平成30年度、31年度「国有林モニター」をしています柴尾です。

平成30年11月10日に開催されました福岡県朝倉市での「モニター会議」では、九州森林管理局や参加されたモニターの皆さん、お疲れ様でした。

私が住んでいる小都市が隣接する朝倉市では、平成29年7月の「九州北部豪雨」による山腹崩壊、土砂災害、河川氾濫などで、家屋などが甚大な被害を受けました。自然災害の猛威は、

## 「国民にとって大切な森林、自然豊かな国土を」

一瞬にして、全てをのみこみ・奪うことを実感しました。日本は世界有数の森林国で、国土面積の約7割が森林です。この森林が国土の保全、災害防止、水資源の保全、地球温暖化防止など、大変重要な役割を果たしています。

しかし、国民の多くは関心を示さないのではと危惧しています。

特に文明の利器である「IT」関係などには飛びついて興味を示します。被災地の住民を除

いて、一般国民は、森林が重要な役割を果たしていることへの理解が足りないと思います。マスメディア活用など、「国民の目と耳に響く広報」をすれば、国民は関心を示し、理解・支援・協力すると思います。こちら側の土俵に乗ってもら

う参加型が効果的です。森林管理局で取り組まれている中で、国民に身近な施策として、地域林業を支える担い手の育成、森林景観を活かしたレクリエーション施設、被災地の森

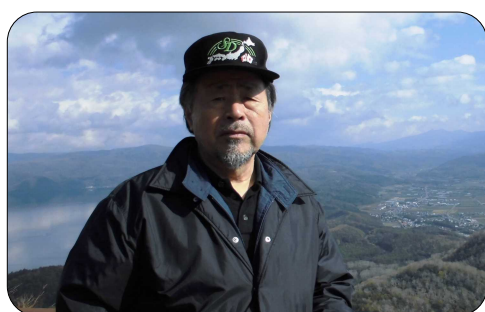
私は日本防災士機構の防災士として、地域ボランティアをしています。最近、地域の皆さんが防災に強く関心を持つようになりました。毎月号の「広報九州」、情報誌「林野」の資料

しかし、テレビ、ラジオ、スマホは見るが、新聞など読まない人が多いのも現実、ここに手当てできたらと思います。

「国民にとって、大切な森林」を多くの国民が理解し、支援、協力するようになれば、「自然豊かな国土」となるでしょう。

を大切に読ませていただき、微力ながら、ボランティア活動で接する多くの皆さんに、森林の果たす役割の重要性をアピールしています。

(小都市在住)



柴尾 美敏 さん

大雨により延期していたもので

当日は午前中に鹿児島中央警察署交通課から講師を迎え、鹿児島県における交通事故の現状、高齢者に関する事故、および運転等の講話を聞きました。また、午後からは鹿児島県防災航空センターから講師を迎え鹿児島県における防災ヘリの活動状況等に関する勉強会を実施しました。両講話とも各職員は真剣に聞き人命の尊さ、安全の重要性を再認識しました。

最後に、警察署、県防災航空センターの日頃の活動に感謝するとともに、当署における無災害の継続を確認し、講習会を終了しました。

## 「いっしょに国のお仕事で国有林ブースを設置する」

7月31日・8月1日の両日、熊本地方合同庁舎において、九州農政局主催の夏休み特別イベント、「いっしょに国のお仕事」夏休み見学デーが開催されました。

このイベントは、国の機関の仕事や、展示や体験メニューを通して楽しく知っていただくとともに、親子のふれあいを深めていただくことを目的としたイベントです。

九州森林管理局や九州地方環境事務所など13機関が協力しており、会場には2日間で合計697人の来場がありました。

九州森林管理局のブースでは、森林・林業に関するパネルの展示、パンフレットや「お山ん画」の配布、「山の日」のPRや桜の小枝を使ったストラップ「もっくん」の木工教室を実施しました。当ブースには2日間で約145人の子ども達が訪れ、親子でももっくん作りを楽しみむなど大好評でした。

ブースを訪れた方々には、もっくん作りのほかパンフレットや「お山ん画」を読んだりしてもらい、楽しみながら森林・林業をはじめ九州森林管理局の仕事について知って頂くことができました。

(担当技術普及課)



大盛況の技術普及課のブース

## 「霧島山モンテフェス2019」に参加

【宮崎都城支署】8月11日山の日の祝日にえびの高原において、「霧島山モンテフェス2019」が開催されました。「霧島山モンテフェス」は山の日を記念して平成28年から毎年開催されているイベントで、当支署も木工体験コーナーのブースで参加し、山の日のPRを行いました。



都城支署のブースも大盛況

当日は薄曇りの過ごしやすい気候の中、大勢の来場者で賑わいました。木工体験コーナーでは丸太切り体験の「コースター」作成と、木工人形の「もっくん」作成を行いました。丸太切り体験では子供たちがサククラ&ヒノキ丸太のどちらかを選び、慣れ

ないノコギリに悪戦苦闘しつつ一生懸命に丸太切りに挑戦していました。切った丸太の輪切りには、霧島連山等の焼き印を押しつけてオリジナルのコースターにしました。また、木工人形作りではカラフルな毛糸を使い、思い思いの「もっくん」作りに入力していました。

## 西臼杵支庁との意見交換会を実施

【宮崎北部森林管理署】当署では、民国連携の一層の推進を図るべく、民有林行政を行う宮崎県西臼杵支庁林務課と、それぞれの取組などの情報を共有し、地域林業の課題解決に向けて意見交換会を行いました。

西臼杵支庁からは、宮崎大学と実施する下刈り試験等についての情報提供があり、当署からは、林業の低コスト化に向けた取組等の説明を行いました。また、この意見交換会は若手育成も兼ねていたため、若手職員よりブナハバチ被害やシステム販売、国有林における樹木採取権制度についても参考として



意見交換会の様子

情報提供しました。会議の最後には、今後も情報共有を密に連携を深め、地域林業の発展のため協力していくことを確認し、意見交換会を終了しました。

## 高校生が林業体験

【宮崎南部森林管理署】8月9日に、宮崎県立日南振徳高校2年生の12名を対象に三ツ岩才ヒスギ遺伝資源希少個体群保護林において林業体験学習を行いました。

この体験学習は、次代の担い手である高校生に森林・林業・木材産業への理解を深めてもらうため、毎年、宮崎県林業労働機械化センターの依頼を受けて実施しているものです。

当日は、あいにくの雨のためバスの車内で資料による講義を行った後、傘を差しながら林内を20分ほど散策しました。

途中、樹齢140年生、樹高38mの木の下で、足元の腐葉土が雨を吸収するスポンジの役目をして、水源のかん養や土砂の流出を防いでいることなどの森林の役割を学びました。

また、林内と舗装された林道の足元の感触の違いなど体験し、自然のやさしさも経験しました。



日南振徳高校の生徒と記念撮影

生徒たちは、このほか、木材市場や森林組合で高性能林業機械の実演などを体験し、森林・林業に触れる貴重な一日を過ごしました。

当署は今後とも、宮崎県や地元の森林組合などと連携し、次代の担い手育成に取り組んでいきます。

## 新任挨拶 よろしくお願ひします

## 企画調整課長

年齢 35歳  
出身地 京都府  
前職 林野庁国有林野部経営企画課付  
抱負 初めての九州局勤務と

なります。温暖で樹木の成長の早い九州局管内では、戦後に造成された人工林が他地域に先駆けて利用期を迎えています。

また、世界自然遺産の屋久島や、世界自然遺産に推薦中の奄美・沖縄など、貴重な森林生態系も有しています。このような九州の森林・林業のさらなる発

展に貢献できるよう、微力ながら精一杯努力してまいりたいと思います。



成瀬 昌弘  
なるせ まさひろ



メギは山地や丘陵に普通に見られる刺のある小さな葉の多い落葉低木です。幹が多数出ていることも特徴です(身近なメギ科の植物は、庭先で観察できるナンテンがあります)。



## 142 メギ (メギ科)

枝や葉の付け根に葉が変化した刺が多数出ており、観察するときには刺に注意です。葉は単葉ですが写真のように短い枝は束生し、長い枝は互生します。

名前は、メクスリノキと同じように、昔、集や幹の部分を使って目薬に使ったことからメギ(目木)となっていました。また刺が多いことから「とりとまらず」(倉田悟植物と民俗)「ことりとまらず」(森林家必携)の名前もあります。

メギはヘビノボラズやオオバメギと似た植物ですが、メギは前年枝に稜と溝があり葉は全縁



オオバメギは前年枝に稜や溝がない、ヘビノボラズは葉に鋸歯があることを確認することで区別できます。

す。メギは樹木園の中央付近、東側で観察できます。

花は両性花で新葉が出る頃、小総状花序を出し黄色の花を下向きに咲かせ、液果は長楕円形で秋から冬にかけて紅熟します。

森林インストラクター

安案 行雄



履正社(大阪代表)の初優勝で幕を閉じた令和最初の甲子園、毎年ながら「ひたむきなプレー」「筋書きのないドラマ」「陰で選手を支える人々」に心打たれ時には涙してしまふ▼ここまで高校野球が人々に感動を与える要因は何であろう▼強い故郷愛、公立校や農業高校の奮闘なども考えられるが、やはり若者の一生懸命なプレーが最大の要因ではないだろうか▼歳を重ねると一生懸命な姿を見られることが恥ずかしく、無難に失敗しないようにと守りの気持ちが先行してしまう▼「一生懸命はカッコいい」息子が通っていた学校の表示板が頭をよぎるとともに己の言動を顧みれば反省の日々である▼また、テレビ番組で華やかな表舞台ではなく、損得勘定なく裏方として球児を支える人々に着目し描いていることも感動を与える一因であろう▼我々も森林の公益的機能を最大限発揮させる裏方として肅々と業務を全うし、森林に携わる仕事者が国民に感動を与える日が来ることを願うばかりである。

(り)